

<http://www.operaroma.it/ita/opera-maometto-II.php>

▼《マオメット 2 世》の新／旧・批判校訂版について▼

ところで、今年 6-7 月にガーシントン・オペラ (Garsington Opera) で上演された《マオメット 2 世》は、「オリジナル・ヴァージョンの新エディションによる英国初演 (British stage premiere of a new edition of the original version)」と明記されています。この上演の成功は、批評に、「ロッシーニの時代にはこれは彼の最も成功しなかった作品の一つであったが、現在は彼の最良の作品の一つに思える」と書かれたことでも判ります (『ファイナンシャル・タイムズ』アンドルー・クラーク筆。前記オペラ座サイトのリンクで読むことができます)。

では、「オリジナル・ヴァージョンの新エディション」とはなんでしょう。それが、筆者が HP に掲載した《マオメット 2 世》作品解説の末尾に記した Hans Schellevis による新・批判校訂版です。これは 2012 年 7-8 月ニューメキシコ、サンタ・フェ・オペラで初使用された新たなエディションで、ロッシーニ財団の批判校訂版 (1985 年成立シモーネ校訂版) を不十分とするフィリップ・ゴセットがより広範な楽譜素材を交えて作成させたものです。

日本ロッシーニ協会 HP の《マオメット 2 世》作品解説はこちら。

<http://societarossiniana.jp/MaomettoII.pdf>

日本ロッシーニ協会の演奏会ではロッシーニ財団の批判校訂版を正式に借りて使いましたが、リコルディ社経由で届いた楽譜は……以前メルマガにも書きましたが……実にひどいものでした。なにがひどいかと言うと、1820 年代のパリ版のコピーに追加と訂正を手書きしただけの 1985 年版 (ROF 初上演に使用した楽譜)、1987 年版 (第 2 校)、1988 年版 (実質的に第 2 校と同じ) の 3 種が混在し、譜面が汚くて読みづらだけでなく、音符の間違ひもすごたくさんあるのです。

1988 年版には表紙に指揮者ジェルメッティの名前をゴム印したのと、ゴム印せず「EDIZIONE PROVVISORIA」のシールを貼ったものの 2 種類がありました。この 1988 年版で初めてリコルディ社のプレート番号 134151 が付されましたので、出版前の暫定エディションとしてはこれが最新なのでしょう。そして 1990 年と 1993 年に同じ楽譜が貸与された痕跡があるので、過去 15 年間の《マオメット 2 世》は基本的にこの 1988 年版で演奏されたのでしょう。でもそれが、音符の間違ひが山ほどあるひどい楽譜なのです。

ロッシーニ財団と袂を分かったゴセット先生がバーレンライター社から独自に批判校訂版の出版を始めた理由はさまざまですが、当初出版を予定しなかった《マオメット 2 世》を成立させたのは、シモーネ校訂版のひどさに呆れ、2012 年サンタ・フェ・オペラ用に急遽用意させたのだと思います (筆者推測)。

思えば ROF 初上演から 25 年経ってもまだ、《マオメット 2 世》の全集版は未出版です。ピアノ伴奏譜の出版は全集版の刊行から通例 10 年以上も後なので、私たちが《マオメット 2 世》のそれを入手できるのはどんなに早くても 2024 年より後……つまりは ROF 初上演から 40 年以上も後……になります。いくらなんでも仕事が遅すぎる！と怒るのは、ゴセット先生や筆者だけではないはず。過去 10 年間のロッシーニ財団の停滞についてこれまで何度か批判的に言及してきましたが、それには多くの理由があるのです。

(2013 年 11 月 25 日 水谷彰良)



◆ガゼッタ第 47 号◆



ガゼッタ第 47 号をお届けします。

本号は、「メルマガ配信登録 100 人突破の御礼」「2014 年 ROF の会期と演目発表!」「マリーナ・コンパラートを迎えて (朝岡聡プロデュース、2014 年 3 月 18 日。会員割引あり!)」に続いてお薦め演奏会——「トリノ王立歌劇場特別演奏会 (オール・ロッシーニ・プロ、12 月 6 日)」と「富岡明子 東京文化会館モーニングコンサート (1 月 22 日午前)」——のお知らせです。

12 月 23 日の例会「ゼツダ指揮・演奏会形式《ギョーム・テル》鑑賞会」の案内はこちら。

<http://societarossiniana.jp/meeting.html>

▼メルマガ配信登録 100 人突破の御礼▼

先月 24 日、日本ロッシーニ協会ホームページの管理人さんから、メルマガの配信登録が 100 人になったとの報告がありました。100 人は多いのか少ないのかビミョーな数ですが、会員数が 130 人程度の協会ではメルマガを始めて 1 年 3 ヶ月ですから順調と言って良いでしょう。書き手の個性が過剰でもいけないし、情報提供だけでもつまらない……長く続けるには「無理せずテキトー」をモットー (?) に、硬軟取り混ぜユルユル発信させていただきますので、宜しくお付き合いください。

会員の皆さまには、先日往復ハガキにて 12 月 23 日の例会後の忘年会の出欠をお尋ねしていますが、最初に戻った返信ハガキには、お名前と出欠の有無が記されていませんでした。お手元に届いてすぐ切り取って出された方、心当たりのある方は、お手数ですが事務局までご連絡ください。

▼2014年 ROF の会期と演目発表！▼

すでに管理人さんが当協会フェイスブックにプログラムをシェアし、当協会ツイッターにもリツイートしてくれていますが、来年 ROF (ロッシェニ・オペラ・フェスティバル) の会期と演目のおおよそが発表されました。今年8月の段階では3演目の一つがファルサ《幸せな間違い》でしたが、それが演奏会形式《セビーリヤの理髪師》に変更されました。他の二つがオペラ・セーリアで、《幸せな間違い》も実質的にセミセーリアであることから、オペラ・ブッフアと差し替えたのでしょう。会期も最初の発表は8月8～20日でしたが、10～22日に変更されています。

現時点では、次に掲げる主要3演目、若者公演《ランスへの旅》、管弦楽伴奏版《小ミサ・ソレムニス (小荘厳ミサ曲)》のみ期日が判明しています(歌手未定)。

- ◎《アルミーダ》(新演出)：8月10、13、16、19日 アドリアティック・アリーナ
ルカ・ロンコーニ演出、ロベルト・アッパード指揮、ボローニャ市立劇場管弦楽団&合唱団
- ◎《セビーリヤの理髪師》(演奏会形式またはセミステージ)：8月11、14、17、20日 ロッシェニ劇場
ジャコモ・サグリバンティ指揮、ボローニャ市立劇場管弦楽団&合唱団
- ◎《パルミラのアウレリアーノ》(新演出)：8月12、15、18、22日 ロッシェニ劇場
マリーオ・マルトーネ演出、ウィル・クラッチフィールド指揮、ロッシェニ交響楽団&ボローニャ市立劇場合唱団
- ◎若者公演《ランスへの旅》：8月13、16日 ロッシェニ劇場
指揮者未定。ロッシェニ交響楽団
- ◎管弦楽伴奏版《小ミサ・ソレムニス (小荘厳ミサ曲)》：8月21日 ロッシェニ劇場
アルベルト・ゼッダ指揮、ボローニャ市立劇場管弦楽団&合唱団

ペーザロに行きたいのに行けない、というロッシェニ・ファンも多いはず。そこで次に、来年3月までの国内の主な演奏会を紹介しておきましょう。最初は日本ロッシェニ協会後援の「マリーナ・コンパラートを迎えて」。

▼マリーナ・コンパラートを迎えて(朝岡聡プロデュース、2014年3月18日)▼

- ◎マリーナ・コンパラートを迎えて(朝岡聡プロデュースの演奏会) 日本ロッシェニ協会後援&会員割引実施！
期日：2014年3月18日(火) 19時開演
場所：ヤマハホール(銀座ヤマハ7階)
チケット：全席指定 前売7,000円 当日7,500円 ペア券13,000円(前売のみ) 日本ロッシェニ協会会員割引については下記。
出演：マリーナ・コンパラート(Ms)、中井亮一(T)、須藤慎吾(Br)、渡辺睦樹(エレクトーン)、朝岡聡(コンサート・ソムリエ)

多彩なレパートリーで活躍するメゾソプラノ、マリーナ・コンパラートを中心に、日本の若きベルカント歌手二人が共演するコンサートです。プロデューサーは日本ロッシェニ協会運営委員のコンサート・ソムリエ、朝岡聡さん。曲目はロッシェニがメインで、モーツァルト《フィガロの結婚》～「恋とはどんなものかしら」、ロッシェニ《セビーリヤの理髪師》～「今の歌声は」「私は街の何でも屋」「それじゃ私じゃないの」「万能にして不思議な力を持つ」「ああ、なんとという思いがけない打撃」ほかを演奏します。

日本ロッシェニ協会の会員は単独券1割引(6,300円)、ペア券500円引き(12,500円)でご覧いただけます。近日中に会員に発送するファクス用紙でのお申し込みとなりますので、しばしお待ちください。

チラシは現時点で仮ですが、当協会フェイスブックをご覧ください。<https://www.facebook.com/JapanRossini>

以下、明日に行われる「トリノ王立歌劇場特別演奏会(オール・ロッシェニ・プロ、12月6日)」「富岡明子 東京文化会館モーニングコンサート(2014年1月22日)」のお知らせです。藤原歌劇団《オリイ伯爵》(2014年1月31日&2月2日)については次号で紹介させていただきます。

▼トリノ王立歌劇場特別演奏会(オール・ロッシェニ・プロ、12月6日)▼

- ◎都民劇場主催 トリノ王立歌劇場特別演奏会(オール・ロッシェニ・プロ)
12月6日(金) 19:00開演、東京文化会館大ホール
ジャンドレア・ノセダ指揮 トリノ王立歌劇場管弦楽団&合唱団 ソプラノ：バルバラ・フリットリ、メゾソプラノ：ダニエラ・バルチェッローナ、テノール：ピエロ・プレッティ、バス：ミルコ・パラッツィ
曲目：《セビーリヤの理髪師》《泥棒かささぎ》《ギョーム・テル》の序曲、《スタバト・マーテル》

今年何度目かのロッシェニ《スタバト・マーテル》ですが、ソリストはこれが一番充実しています。明日の公演なので、チケットはお早め。

▼第4回 NHK イタリア歌劇団のプログラムが見たい！▼

このところずっと、今度の『ロッシニアーナ』に掲載する明治維新から昭和43年までの日本のロッシニア受容の歴史を執筆していました。その過程で痛感したのが、ちょっと前の資料なのに現物を見るのが難しいものがある、ということ。知りたいのは、昭和38年(1963年)の第4回NHKイタリア歌劇団の《セビリアの理髪師》の詳細で、現時点では次の項目を把握しています。

主催：日本放送協会／NHK サービスセンター。期日と会場：昭和38年10月23・28日、11月1・6・9日(東京文化会館大ホール。5回)、11月17・20日(大阪・フェスティバルホール。2回)。指揮：ニーノ・ヴェルキ、演出：ブルーノ・ノフリ、管弦楽：NHK交響楽団、合唱：二期会合唱団／藤原歌劇団合唱部。配役はロジーナ：ジュリエッタ・シミオナート、伯爵：ロレンツォ・サバトゥッチ、フィガロ：アルド・プロッティ、バルトロ：アルトゥーロ・ラ・ポルタ、バジリオ：ニコラ・ロッシ・レマーニ、ベルタ：アンナ・ディ・スタジオ、フィオレロ：ジョルジョ・オネステイ

でもそこには、装置、照明、チェンバロ奏者などスタッフ関係が抜けています。プログラムを見たいと思い、国立国会図書館、東京文化会館の音楽資料室、芸大や国立音大その他の大学図書館の所蔵を検索しても見つかりません。古書サイトにもなし。どなたかお持ちでしたら、その部分をコピーさせてもらえないでしょうか？ 出演者とスタッフの部分をファクスしていただだけでも構いませんので、情報をお寄せいただければ幸いです。

▼来年4月までの例会予定▼

秋に例会を開催できなかったため、その分も含めて来年は2月、3月、4月と3ヶ月連続で例会を開催します。期日は2月11日(火・祝)、3月21日(金・祝)、4月27日(日)。会場はいずれも北沢タウンホール。2月分の題目と内容については、次号のメルマガで発表させていただきます。

▼藤原歌劇団《オリイ伯爵》と指揮者の変更(2014年1月31日&2月2日)▼

来年1月31日と2月2日に藤原歌劇団が《オリイ伯爵》を上演することは、皆さまご存じのことと思います。先日藤原歌劇団から届きましたご案内に、指揮者が当初予定のアントネッロ・アッレマンディが都合によりデニス・ヴラセンコに変更されたと書かれており、同封のチラシも指揮者がヴラセンコに変わっていました。そこで、新たなチラシに沿って概要を記しておきます。

期日：2014年1月31日(金) 18:30開演
2月2日(日) 15:00開演

会場：東京文化会館大ホール

指揮：デニス・ヴラセンコ

演出：松本 重孝

出演：オリイ伯爵：アントニーノ・シラグーザ(両日)、アデル：佐藤美枝子(1/31)／光岡 暁恵(2/2)、伯爵の教育係：彭 康亮(両日)、イゾリエ：向野 由美子(1/31)／松浦麗(2/2)、ランボー：柴山 昌宣(1/31)／森川 賢二(2/2)、ラゴンド：牧野 真由美(1/31)／吉田 郁恵(2/2)、アリス：清水 理恵(1/31)／宮本彩音(2/2)、騎士：岡坂 弘毅(両日)

合唱：藤原歌劇団合唱部

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

S席¥18,000 A席¥15,000 B席¥12,000 C席¥9,000 D席¥6,000 E席¥4,000 F席¥2,000

詳細はこちら(但し12月14日の段階では、旧チラシと変更前の情報です)。<http://www.iof.or.jp/>



変更後の指揮者デニス・ヴラセンコ(Denis Vlasenko)は、2008年にROFの若者公演《ランスへの旅》を指揮した新進です。ちょっと心配なのが、これがオリイ[オーイ]初役となるシラグーザ……だって彼は……あ、本日はここまで！

▼朝日カルチャーセンター新宿の新講座「ベルカント・オペラの魅力」！▼

私事ですが、来年1月から朝日カルチャーセンター新宿で新講座《ベルカント・オペラの魅力》を始めます。1~3月は第一期とあってロッシニアが中心で、その後も継続的に声楽やオペラの諸問題を交えながら本格的かつマニアックに19世紀前半のイタリア・オペラの魅力を徹底解明したいと思います。

講座名「ベルカント・オペラの魅力」 講師：水谷彰良

▼来年2～4月の例会予定と2月11日のご案内▼

来年2～4月の例会期日は、次のとおりです——2月11日（火・祝）、3月21日（金・祝）、4月27日（日）。会場はいずれも北沢タウンホール。次回例会は次のように開催します。

◎日本ロッシーニ協会例会（2月11日）のご案内

題目：パリにおけるロッシーニ作品の受容とオペラ・コミック《セビーリヤの理髪師》映画版

講師：水谷彰良

日時：2014年2月11日（水・祝）午後1時30分開始、午後5時終了予定

会場：北沢タウンホール3Fミーティングルーム（定員72名。下北沢駅より徒歩4分）

地図は <http://kitazawatownhall.jp/map.html>

会員ならびにそのお連れの方は無料。その他の方は当日1,000円を頂戴します。

内容：

ロッシーニのオペラを同時代に最も高く評価したのはフランス人でした。パリではさまざまな形でロッシーニ作品が上演されましたが、その受容は次の3種に分けることが出来ます。

- (1) イタリア劇場におけるオリジナル・イタリア語版
- (2) オペラ座におけるオリジナル・フランス語版
- (3) オペラ・コミック座その他の劇場のフランス語翻案

講演の第1部では、3種の上演形態の違いと特色をそれぞれの楽譜や資料によって明らかにし、第2部でオペラ・コミック《セビーリヤの理髪師》映画版を鑑賞します（ジャン・ルビニャック監督、1947年制作、48年封切り。全2幕96分）。オペラ・コミック版は単にフランス語台本への置き換えではなく楽曲にも違いがあり、またフランス人ならではの歌唱の違いも楽しめます。 [講師・記]

▼会員関連の演奏会のご案内▼

会員の皆さまにチラシと共にお送りした演奏会の告知、ならびに新規のご案内です。

◎「マリーナ・コンパラートを迎えて」 会員割引の実施と申込用紙

メゾソプラノ、マリーナ・コンパラートを中心に、日本の若きベルカント歌手二人（お馴染みテノールの中井亮一さんとバリトンの須藤慎吾さん）の共演するコンサートを、運営委員会・朝岡聡さんがプロデュースします。

曲目はロッシーニがメインで、モーツァルト《フィガロの結婚》～「恋とはどんなものかしら」、ロッシーニ《セビーリヤの理髪師》～「今の歌声は」「私は街の何でも屋」「それじゃ私じゃないの」「万能にして不思議な力を持つ」「ああ、なんという思いがけない打撃」ほか。主催者のご厚意で、会員割引も実施します。

期日：2014年3月18日（火）19時開演

場所：ヤマハホール（銀座ヤマハ7階）

チケット：全席指定 前売7,000円 当日7,500円 ペア券13,000円（前売のみ）

★日本ロッシーニ協会会員は単独券1割引き（6,300円）、ペア券500円引き（12,500円）

出演：マリーナ・コンパラート（Ms）、中井亮一（T）、須藤慎吾（Br）、渡辺睦樹（エレクトーン）、朝岡聡（コンサート・ソムリエ）

会員割引チケットのお申し込みは、過日お送りしました申込用紙に必要事項をご記入いただき、FAX 03-3565-6772（オフィシャルシユ）にお申し込みください（2014年1月20日締切）。チケットは代金振込先と共に郵送致します。チラシはフェイスブックをご覧ください。 <https://www.facebook.com/JapanRossini>

◎新国立劇場オペラ研修所公演《ナクソス島のアリアドネ》2014年2月28日～3月2日、天羽明恵さん出演

2014年2月28日～3月2日、新国立劇場中劇場にて、新国立劇場オペラ研修所《ナクソス島のアリアドネ》が上演されます（R.シュトラウス生誕150年。指揮：高橋直史、演出：三浦安吾）。当協会運営委員・天羽明恵さんは2月28日（金）と3月2日（日）にツェルピネッタを演じます。

詳細は研修所のホームページ。 http://www.nntt.iac.go.jp/opera/performance/131206_003632.html

◎富岡明子 東京文化会館モーニングコンサート（2014年1月22日午前）▼

10月の日本ロッシーニ協会定期演奏会《マオメット2世》抜粋でカルボを歌って絶賛された新進気鋭のメゾソプラノ、富岡明子さんによるミニコンサートが2014年1月22日、東京文化会館小ホールで行われます。モーニングコンサートとあって開場10:00、開演11:00です。

期日：2014年1月22日（水）11:00開演！ 東京文化会館小ホール 出演：富岡明子（Ms）、東由輝子（pf）

詳細はこちら。 http://www.t-bunka.jp/sponsorship/spo_140122.html

◎ロッシーニ《アルミーダ》ハイライト 解説付き演奏会形式

これは会員の西尾京子さんから新規にいただいた告知です。

ロッシーニ《アルミーダ》ハイライト解説付き演奏会形式

期日：2014年3月22日（土）18時開場 18時半開演

会場：アコスタディオ JR原宿駅竹下口徒歩3分 自由席2,000円

- ・シューベルト：交響曲第3番 ニ長調 D.200
- ・ロッシーニ：カンタータ『ジャンヌ・ダルク』
- ・マリピエロ：交響曲第2番『悲歌』
- ・ロッシーニ：歌劇『ウィリアム・テル』より第1幕「パ・ド・シス」、第3幕「兵士の踊り」
- ・ロッシーニ：歌劇『セミラーミデ』序曲

カンタータ『ジャンヌ・ダルク』はシャッリーノが管弦楽伴奏に編曲したソロ・カンタータ《ジョヴァンナ・ダルク》と思いますが、ソリスト未定です。チケットの一般発売日は1月25日（土）です。

5月16日の案内はこちら。http://www.tpo.or.jp/concert/20140516_01.php

5月18日の案内はこちら。http://www.tpo.or.jp/concert/20140518_01.php

▼ ロッシーニ関連の Naxos 新譜 2 点 ▼

昨年12月、Naxos レーベルから発売されたロッシーニ関連の新譜2点の紹介です。

◎ Rossini: Complete Overtures • 3 (C. Benda / Prague Sinfonia Orchestra)

ロッシーニ序曲全集・第3集（《マオメット2世》1822年ヴェネツィア版、《アルジェのイタリア女》《ラ・チェネレントラ》《マティルデ・ディ・シャブラン、または美女と鉄の心》《結婚手形》《タンクレーディ》の序曲と《コントラバスのオブリガート付きシンフォニア》）

クリスティアン・ベンダ指揮ブラハ・シンフォニア管弦楽団

録音：2011年9月&2012年5月ブラハ [Naxos 8.570935] (海外盤)



現在進行中のロッシーニ序曲全集の第3集。第2集についてはメルマガ第32号（2013年7月5日配信）に紹介済みです。そこにも記しましたが、ベンダ指揮ブラハ・シンフォニア管弦楽団の演奏が「普通」で、弾むようなブリオ（活力）やきらめく才気の欠如が残念です。でも新録音だし、Naxos 盤は廉価なので毎回購入しています。

《マオメット2世》序曲は1822年ヴェネツィア再演用にお手軽に書いた曲。本来このオペラに序曲はありません。そこが革新的だったのに、保守的なヴェネツィアのフェニーチェ劇場に序曲を求められ、やむなく書いてしまったのがこれ。

◎ Mercadante: Omaggio a Bellini / Seconda Sinfonia caratteristica napoletana / Sinfonia sopra motivi dello Stabat Mater del celebre Rossini / Clarinet Concerto No. 2 / Garibaldi – Sinfonia a grand'orchestra (F. La Vecchia / Orchestra Sinfonica di Roma)

メルカダンテ：ベッリーニへのオマージュ／ナポリ風のシンフォニア第2番／著名なロッシーニの《スタバト・マーテル》のモチーフによる大シンフォニア／クラリネット協奏曲第2番／ガリバルディ（大管弦楽によるシンフォニア）

ジャンマルコ・カザーニ（クラリネット）、フランチェスコ・ラ・ヴェッキア指揮ローマ交響楽団

録音：2012年6&7月ローマ [Naxos 8.573015] (海外盤)



これはロッシーニの後継者サヴェーリオ・メルカダンテの管弦楽曲集で、ロッシーニと関係するのは「《スタバト・マーテル》のモチーフによる大シンフォニア」のみ。1843年4月にナポリで《スタバト・マーテル》を演奏する際、メルカダンテがコンサートの導入用に作曲した約13分の演奏会用序曲です。印象的な音楽をつなぎ合わせて構成するポプリー（potpourri [ごたまぜ]）の一種で、正直たいした曲ではありません。

実は、この録音で聴きたかったのがシンフォニア「ガリバルディ」でした。イタリア統一を記念して1861年に作曲初演された曲で、2011年12月6日に統一150周年を記念して熊本県立劇場コンサートホールにてレオンカヴァッロのオペラ《マメーリ》と共に現代蘇演されたのです。でも熊本まで聴きに行く情熱はなく、CDの発売を待っていました（註：《マメーリ》は昨年 Bongiovanni から世界初録音が発売済み）。

こちらも期待して聴くのがっかりするような曲ですが、1850～60年代のイタリアではこうしたタイプの管弦楽曲が大衆に喜ばれたのです。レスピーギに始まるイタリアの新世代とそれ以前のメルカダンテとでは、生きた時代も音楽の趣味もまったく違っていたことが判ります。

次号では、昨年発売されたロッシーニ時代のマイナー作曲家のオペラ世界初録音を紹介させていただきます。今年もよろしくお付き合いください。

(2014年1月5日 水谷彰良)